

各 位

トモニホールディングスグループの平成30年3月期第2四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：遠山誠司）は、平成30年3月期第2四半期（平成29年4月1日～平成29年9月30日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：吉岡宏美）、香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：本田典孝）及び大正銀行（本店：大阪府中央区、頭取：吉田雅昭）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス
（1）平成30年3月期第2四半期（平成29年4月1日～平成29年9月30日）連結業績

当第2四半期における損益状況は、経常収益は、有価証券利息配当金及び株式等売却益が増加したものの、貸出金利息及び国債等債券売却益が減少したこと等により、前年同期比474百万円減少して34,897百万円となりました。経常費用は、国債等債券売却損及び与信関連費用が減少したこと等により、前年同期比1,292百万円減少して26,148百万円となりました。その結果、経常利益は前年同期比819百万円増加して8,749百万円となりました。また、前期に大正銀行との経営統合に伴い特別利益として計上した負ののれん発生益14,849百万円がなくなったこと等により、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比14,211百万円減少して5,864百万円となりました。なお、前期計上した負ののれん発生益は一時的に発生した会計上の利益であり、これを控除した場合、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比638百万円増加したことになります。

当第2四半期末における総資産は前年度末比1,156億円増加して3兆7,362億円となり、純資産は前年度末比66億円増加して2,184億円となりました。

また、主要な勘定の残高につきましては、譲渡性預金を含む預金等残高は前年度末比1,167億円増加して3兆3,792億円、貸出金残高は前年度末比658億円増加して2兆5,908億円、有価証券残高は前年度末比33億円減少して7,831億円となりました。

		平成30年3月期 第2四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	34,897百万円	△474百万円
	経常費用	26,148百万円	△1,292百万円
	経常利益	8,749百万円	819百万円
	親会社株主に帰属する中間純利益	5,864百万円	△14,211百万円
		平成30年3月期 第2四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	37,362億円	1,156億円
	純資産	2,184億円	66億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	33,792億円	1,167億円
	貸出金	25,908億円	658億円
	有価証券	7,831億円	△33億円
	自己資本比率（国内基準）	9.15%	△0.09%

（2）平成30年3月期通期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）連結業績予想

平成29年5月15日に公表しております平成30年3月期通期の連結業績予想（経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益）につきましては、以下のとおり修正しております。

①修正内容

（単位：百万円）

	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
前回発表予想（A）	11,000	7,000
今回修正予想（B）	14,200	9,400
増減額（B-A）	3,200	2,400
増減率（%）	29.0	34.2

②修正理由

当社銀行子会社3行において、第2四半期までの資金利益が当初予想を上回ったことや与信関連費用が当初予想を下回り貸倒引当金戻入益を計上したこと等から、平成30年3月期第2四半期累計期間の連結業績は当初予想を上回る結果となりました。こうした第2四半期までの業績を踏まえて、平成30年3月期通期の連結業績予想を上方修正するものであります。

2. 徳島銀行

(1) 平成30年3月期第2四半期(平成29年4月1日～平成29年9月30日)単体業績

当第2四半期の損益状況は、経常収益は、利回りの上昇により有価証券利息配当金が増加したこと、貸倒引当金戻入益を計上したこと等により、前年同期比963百万円増加して13,401百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、外国為替売買損が増加したものの、資金利益が増加したこと等により、前年同期比390百万円増加して9,998百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により前年同期比541百万円増加して3,347百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が減少したこと等により、前年同期比1,214百万円増加して3,932百万円となり、中間純利益は、前年同期比657百万円増加して2,629百万円となりました。

当第2四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比622億円増加して1兆4,946億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比621億円増加して1兆6,144億円となりました。また、貸出金残高は、積極的な営業活動により中小企業・個人向け貸出等の取組みを進めたこと等により、前年度末比302億円増加して1兆179億円となりました。なお、自己資本比率(国内基準)は9.07%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比1,960百万円減少して18,603百万円、総与信に占める割合は1.80%となりました。

		平成30年3月期 第2四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	13,401百万円	963百万円
	コア業務粗利益	9,998百万円	390百万円
	コア業務純益	3,347百万円	541百万円
	経常利益	3,932百万円	1,214百万円
	中間純利益	2,629百万円	657百万円
	与信関連費用	△153百万円	△685百万円
		平成30年3月期 第2四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	16,204億円	511億円
	預金等(譲渡性預金を含む)	14,946億円	622億円
	総預り資産	16,144億円	621億円
	貸出金	10,179億円	302億円
	有価証券	4,266億円	△87億円
	自己資本比率(国内基準)	9.07%	△0.19%
不良債権	金融再生法開示債権額	18,603百万円	△1,960百万円
	総与信に占める割合	1.80%	△0.25%

(2) 平成30年3月期通期(平成29年4月1日～平成30年3月31日)単体業績予想

平成29年5月15日に公表しております平成30年3月期通期の単体業績予想(経常利益及び当期純利益)につきましては、第2四半期までの実績を踏まえ、以下のとおり修正しております。

(単位:百万円)

	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	5,100	3,500
今回修正予想(B)	6,700	4,550
増減額(B-A)	1,600	1,050
増減率(%)	31.3	30.0

3. 香川銀行

(1) 平成30年3月期第2四半期（平成29年4月1日～平成29年9月30日）単体業績

当第2四半期の損益状況は、経常収益は、手数料収入が増加したものの、国債等債券売却益や有価証券利息配当金が減少したこと等により、前年同期比1,417百万円減少して13,453百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が減少したこと等により、前年同期比514百万円減少して10,682百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比694百万円減少して3,185百万円となりました。

経常利益は、上記要因等により、前年同期比719百万円減少して3,427百万円となり、中間純利益は、前年同期比418百万円減少して2,152百万円となりました。

当第2四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比539億円増加して1兆4,654億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比500億円増加して1兆6,134億円となりました。また、貸出金残高は、積極的な営業活動により中小企業・個人向け貸出等の取組みを進めたこと等により、前年度末比296億円増加して1兆1,920億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は10.02%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比1,356百万円減少して21,449百万円、総与信に占める割合は1.77%となりました。

		平成30年3月期 第2四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	13,453百万円	△1,417百万円
	コア業務粗利益	10,682百万円	△514百万円
	コア業務純益	3,185百万円	△694百万円
	経常利益	3,427百万円	△719百万円
	中間純利益	2,152百万円	△418百万円
	与信関連費用	278百万円	142百万円
		平成30年3月期 第2四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	16,437億円	619億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	14,654億円	539億円
	総預り資産	16,134億円	500億円
	貸出金	11,920億円	296億円
	有価証券	3,064億円	△20億円
	自己資本比率（国内基準）	10.02%	△0.17%
不良債権	金融再生法開示債権額	21,449百万円	△1,356百万円
	総与信に占める割合	1.77%	△0.17%

(2) 平成30年3月期通期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）単体業績予想

平成29年5月15日に公表しております平成29年3月期通期の単体業績予想（経常利益及び当期純利益）につきましては、第2四半期までの実績を踏まえ、以下のとおり修正しております。

（単位：百万円）

	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	4,500	2,400
今回修正予想（B）	5,600	3,300
増減額（B－A）	1,100	900
増減率（%）	24.4	37.5

4. 大正銀行

(1) 平成30年3月期第2四半期（平成29年4月1日～平成29年9月30日）単体業績

当第2四半期の損益状況は、経常収益は、有価証券利息配当金の増加等があったものの、利回りの低下により貸出金利息が減少したこと等により前年同期比26百万円減少して4,665百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比40百万円増加して3,832百万円、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比156百万円増加して660百万円となりました。

経常利益は、株式等関係損益が増加したことにより、前年同期比441百万円増加して856百万円となり、中間純利益は、前年同期比377百万円増加して594百万円となりました。

当第2四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比11億円増加して4,432億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比23億円増加して4,644億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比61億円増加して3,889億円となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比284百万円減少して6,335百万円、総与信に占める割合は1.62%となりました。

		平成30年3月期 第2四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	4,665百万円	△26百万円
	コア業務粗利益	3,832百万円	40百万円
	コア業務純益	660百万円	156百万円
	経常利益	856百万円	441百万円
	中間純利益	594百万円	377百万円
	与信関連費用	△66百万円	88百万円
		平成30年3月期 第2四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	4,916億円	23億円
	預金（譲渡性預金を含む）	4,432億円	11億円
	総預り資産	4,644億円	23億円
	貸出金	3,889億円	61億円
	有価証券	480億円	73億円
	自己資本比率（国内基準）	6.42%	0.26%
不良債権	金融再生法開示債権額	6,335百万円	△284百万円
	総与信に占める割合	1.62%	△0.10%

(2) 平成30年3月期通期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）単体業績予想

平成29年5月15日に公表しております平成30年3月期通期の単体業績予想（経常利益及び当期純利益）につきましては、第2四半期までの実績を踏まえ、以下のとおり修正しております。

（単位：百万円）

	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	510	330
今回修正予想（B）	910	620
増減額（B－A）	400	290
増減率（%）	78.4	87.8

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部	TEL：087-812-0102
株式会社徳島銀行 企画部	TEL：088-656-1118
株式会社香川銀行 総合企画部	TEL：087-812-5132
株式会社大正銀行 企画部	TEL：06-6205-8400